

Human Nest

つながる空間

八代研究室
00712027 大河内 綾子

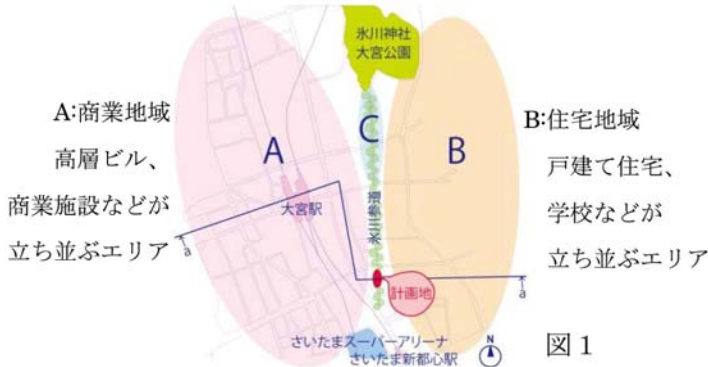
1. はじめに

日照問題・公園不足・道路不足・住宅の画一化・住宅の密集・ご近所付き合いの減少 etc...さいたま市は今、様々な問題を抱えながら、昨年人口のピークを迎え、これから増え続けた人口は減少に転じて行く。変わって行くこれからの社会の中で生活のカタチも変わり、人々のつながり方や、自然とのつながり方も変わって行く。そんな未来に向けたつながり方を新しい人の棲み家(Human Nest)として提案する。

2. 計画地

C:平和公園

参道が整備され多くの人が行き交うエリア



大宮公園からさいたま新都心駅まで南北に続く水川参道は、東西に商業地域と住宅地を分け、南北に新旧のイベント施設をつなぐ道となっている。(図1) 様々な要素をつなぐこの参道沿いを計画地とする。

3. コンセプト

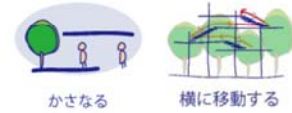
コンセプトは「つながる」。

コンセプトを支える 10 個の手法で、私達の生活の中にある様々な要素がつながる空間をつくる。

敷地は参道と西から続く道を挟んで 3 ブロックに分けられる。敷地面積 4160 m²、延べ床面積 6263 m²のフロアに 12 戸の住戸が建ち、1 人暮らしから家族まで幅広い世代が住む。変化する家族構成に応じて住戸の数やカタチも変えることができる。

4. 設計内容

1. 重なる空間



葉っぱのようにフロアを重ね、フロアを渡りながら昇降する。上に上がる程並木(自然)と深くつながる。(写真1)

2. 柱の森



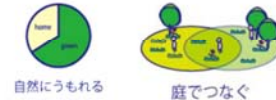
ピロティ一部柱の森で参道空間とつながる。人が集まる公園となり、東側は植栽が多い休息エリア、西側はフラットで活動的なエリアとする。(写真2, 4)

3. 柱とスラブ



構造は鉄骨造とし、柱・梁・フラットスラブで構成する。住宅以外の壁は全て取り払うことで空間がつながる。(写真1)

4. 居住に空き地



最小限の居住に広い空き地。空き地エリアは庭・通路・広場等様々な役割を持ち、人と人がつながる。(写真3)

5. 縁側空間



家の壁を伸ばすことで閉じない空間が生まれる。内でもなく外でもないこの空間によってプライベートとコミュニティーがつながる。

5. おわりに

少子高齢化や人口減少が進むこれからの社会において、人工的な物を使うのではなく、ゆったりと空間や自然を利用して人と人、人と社会をつないで行くことが大切だと思う。この設計を通して、身の回りの様々なつながりを再認識することが出来た。

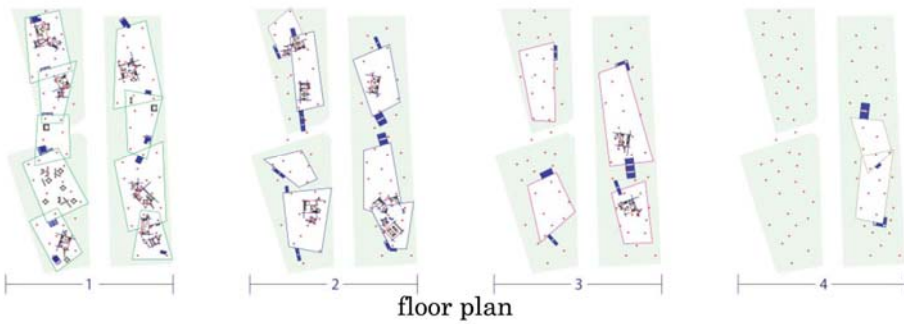
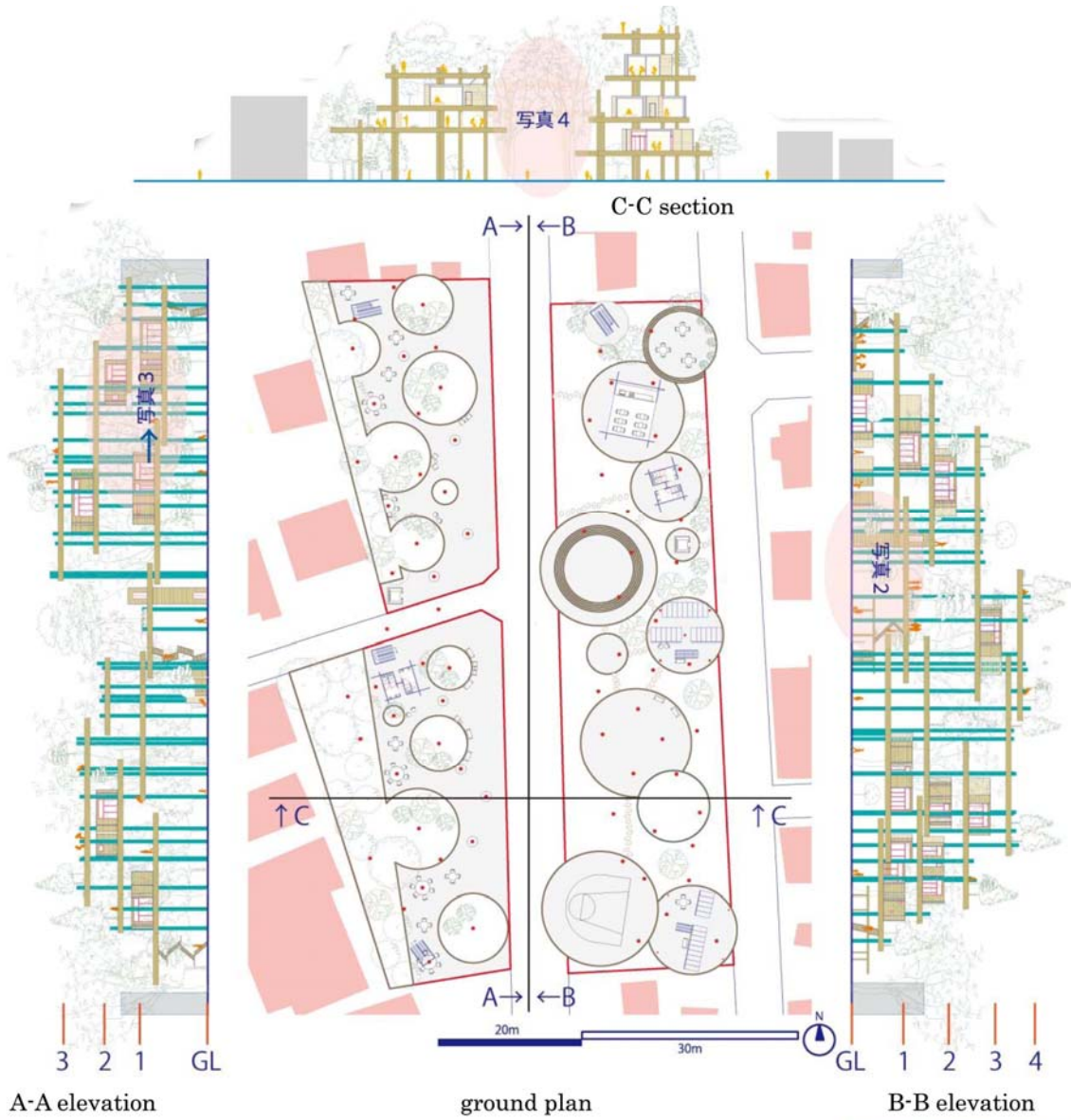


写真1



写真2



写真3